

## 木造耐雪住宅構造チェックリスト作成要領

木造耐雪住宅を設計する場合はこのチェックリストにて項目確認を行い、数値を全て記入しYESかNOを○で囲むこと。NOにチェックされた項目については別紙で構造計算書または、対処方法により安全性が確かめられる書類を添付すること。

### 各項目について

- 柱の直下率はその階の柱の総本数で、下階に柱がある柱の数を割った値をパーセンテージで示す。同じ通りの耐力壁の上下階の比率は下階の耐力壁量を上階の耐力壁量で割った値をパーセンテージで示す。2階の耐力壁の付く柱が柱抜けになっているとき（チェックリストで「NO」にチェック）、耐力壁の下側梁の耐力、たわみ計算及び仕口の施工方法についての書類を添付すること。
- 階段、吹抜け等で平面剛性が低下している部分が3面外部に接している場合（チェックリストで「NO」にチェック）、その周りの平面剛性の強化対策及び耐力壁がある場合はその力の伝達方法等についての書類を添付すること。
- 柱間隔が4.55mを超える場合（チェックリストで「NO」にチェック）、梁の耐力、たわみ計算及び仕口施工方法、そのフレーム変形量について書類を添付すること。
- 構造計算書を添付すること。
- 構造計算書を添付すること。
- 荷重の掛かる構造材に大きな欠き込みがある場合（チェックリストで「NO」にチェック）、その構造材が充分安全であることが確かめられる書類を添付すること。
- 各階のX方向Y方向の壁量を記入すること。3階建て及び2階、1階建てで表の数値以下の壁量の場合及び上階の面積が下階より大きい場合（屋根の底が大きい場合）は使用した耐力壁の各耐力及び使用量から地震力に対し充分安全であることが確認できる書類を添付すること。  
ただし、表の値は地震の地域係数が1であるため、表の値に0.9を乗じた値まで認めるものとしかつ項目1で柱の直下率と同じ通りの耐力壁の上下階の比率が90%以上の場合は表の値に0.8を乗じた値までは計算書の添付はしないものとする。
- 耐力壁のバランスが悪い場合（チェックリストで「NO」にチェック）、各耐力壁のせん断力の分担量を計算し耐力壁が充分安全であることが確認できる書類を添付すること。
- 耐力壁が極端に外部に無く偏心している場合（チェックリストで「NO」にチェック）、各耐力壁のせん断力の分担量を計算し耐力壁が充分安全であり外周の変形量が1/120ラジアンを超えていないことが確認できる書類を添付すること。
- 火打材で囲まれる面積の中で最大の数値を記入する。小屋組及び2階床組に火打材がはいっていない場合（チェックリストで「NO」にチェック）、火打材に代わる平面剛性が求められる部材を使用していることが確認できる書類を添付すること。
- 図面または構造計算書に記入すること。
- 変形の大きな部材に建具が付いている場合（チェックリストで「NO」にチェック）、その対処方法の判る書類を添付すること。
- 隅柱が管柱の場合（チェックリストで「NO」にチェック）、接続金物の耐力または接合部の強度が充分安全であることが確認できる書類を添付すること。
- 仕口に対して大きな荷重が掛かる場合（チェックリストで「NO」にチェック）、仕口の補強が荷重に対して充分安全であることが確認できる書類を添付すること。

## 木造耐雪住宅構造チェックリスト

木造耐雪住宅を設計する場合はこのチェックリストにて項目確認を行い、NOにチェックされた項目については、別紙で構造計算書、対処方法等の安全性が確かめられる書類を添付すること。

1	上段の柱の直下率の最低値はいくつか。 同じ通りの耐力壁の上下階の比率の最低値はいくつか。 ・2階の耐力壁の付く柱の下に1階柱があるか。 ・構造柱の小径（最大値と最小値）	柱の直下率	%	（計算書 ページ）	
		壁の比率	%		
		最大値	c m		
		最小値	c m		
2	吹抜けの3面が外壁に接するところがないか。	YES NO	（計算書	ページ）	
3	柱間は4.55m以下か。（梁長は4.55m以下か）	YES NO	（計算書	ページ）	
4	（高床）基礎の強度は充分か。 高床の場合のスラブの有無	土間スラブ	YES NO	（計算書 ページ）	
		1階スラブ	有（ 有（		c m） c m） 無 無
5	屋根組の部材は雪荷重に対し充分な強度があるか。	YES	（計算書	ページ）	
6	荷重の掛かる柱（梁）の大きな欠き込みはないか。	YES NO	（計算書	ページ）	
7	壁長は下記の表の値以上か。	必要壁量 (床面積当たり)		2階 X方向壁量 cm/m <sup>2</sup> Y方向壁量 cm/m <sup>2</sup> 1階 X方向壁量 cm/m <sup>2</sup> Y方向壁量 cm/m <sup>2</sup> YES NO (積雪時の地震力に対し筋違の耐力 計算書 ページのとおりです)	
		平屋建			47cm/m <sup>2</sup>
		2階建	2階		55cm/m <sup>2</sup>
			1階		69cm/m <sup>2</sup>
8	耐力壁はバランスよく配置されているか。	YES NO	（計算書	ページ）	
9	耐力壁はできるだけ外壁に設け偏心していないか。	YES NO	（計算書	ページ）	
10	床組の火打材で囲まれる最大面積はいくつか。 ・小屋梁組及び2階床組に火打材がはいっているか。			m <sup>2</sup>	
		YES NO	（計算書	ページ）	
11	水平力作用時に浮上りが考えられる部分は充分な補強を施してあるか。	YES	（計算書	ページ）	
12	変形の大きい部材に建具が取りついていないか。	YES NO	（計算書	ページ）	
13	2階の全ての隅柱は通し柱か。	YES NO	（計算書	ページ）	
14	荷重を多く受ける柱の仕口はめり込みに対し充分な強度があるか。	YES NO	（計算書	ページ）	

チェックリスト作成者

氏名

Ⓔ